

土砂災害の歴史を今に伝える

大日堂・ 憾満ヶ淵



明治35年(1902)の洪水で流出する前の大日堂



護岸工事に伴い再現した大日堂



憾満ヶ淵

日光に息づく土砂災害の歴史

明治35年(1902)に発生した足尾台風による土砂の流出は、日光の名所である大日堂をも押し流しました。

以来、「大日堂跡」として、松尾芭蕉の句碑などで往時をしのぶしかありませんでしたが、下流部が狭窄部となっており、洪水時にあふれる危険性があることから、平成17年(2005)に護岸工事を行い、往時の姿が再現されました。

大日堂から大谷川に沿って下っていくと憾満ヶ淵。男体山の噴火により流出した荒沢溶岩で形成された奇勝と、ズラリと並んだ74体もお地藏様、通称「化地藏」が有名です。このお地藏様たちも明治35年の災害で流されましたが、心ある人たちによってここに安置されたものです。



数えるたびに数が違うことから、その名がついた「化地藏」



さらに詳しい
情報はこちらから

国土交通省 関東地方整備局 日光砂防事務所

「砂防なくして日光なし」-先頭に立って砂防の必要性を訴えた初代日光市長・佐々木耕郎氏の言葉